

にじいろ



地方独立行政法人 茨城県西部医療機構

茨城県西部メディカルセンター

Ibaraki Western Medical Center



病院理念

地域の中核病院として患者中心の良質な医療を提供します。



2020年1月1日 令和初日の出
茨城県西部メディカルセンターにて撮影
広報委員会委員長 寺田 真

目次

基本方針

1. 地域医療のコントロールタワーとして保健・医療・福祉の連携を推進します。
2. 地域の住民や医療機関に開かれた医療施設とします。
3. 安全で心のこもった最善の医療を提供します。
4. 地域災害拠点病院として災害に備えます。
5. 健全で効率的な病院の運営・経営を行います。
6. 知識・技能向上のため研修に積極的に取り組みます。
7. 職員は相互の理解と敬意に基づき組織の融和に努めます。

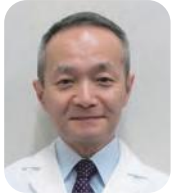
新年あいさつ	2
臨床教育センター紹介	3
病院活動報告	3
疾病コラム (骨折の治療 ～ ONE TEAM ～)	4
骨粗しょう症関係コラム (転倒予防 ビタミンDで介護予防 転倒・転落予防対策)	5
新ドクター・スタッフ紹介	6
地域医療連携室より	7
筑西診療所より	7

新年あいさつ



理事長あいさつ

地方独立行政法人 茨城県西部医療機構 理事長 **水谷 太郎**



明けましておめでとうございます。茨城県西部メディカルセンターは開院から1年3ヵ月余が過ぎました。当院の使命である、急性期中心の医療提供、地域における2次救急医療の完結などは、職員の様々な努力により達成されつつあります。

当院には「筑波大学附属病院・自治医科大学合同茨城県西部地域臨床教育センター」が設置され、両大学から複数の教員医師が集まり、医学生や研修医・専攻医の実習・研修環境の充実に努めています。同センター寺田講師が、最近の活動状況に関して本誌に寄稿しているのをご参照頂ければ幸いです。

また、当院は地域医療連携の拠点として予防医学を重視しており、開院前に策定された基本計画には「健

康増進、情報共有・分析などコントロールタワーの役割を果たす。」と記載されています。その活動の拠点として、2019年4月に「筑波大学ヘルスサービス開発研究センター地域予防医学部門筑西市研究室」が設置されました。教員1名が配置され、生活習慣病の疫学と予防研究の推進、保健医療問題を俯瞰的に捉え全人的な視野を持って医療を実践する医師の育成、当院臨床・予防部門を支援することによる医療環境充実などを目指す取組みを、病院スタッフと共に行っています。

本年は診療報酬改定が予定されていますが、その内容は必ずしも病院にとって好ましいものではなく、医療を巡る環境には大変厳しいものがあります。今後とも関係各位のご理解、ご協力、ご支援をお願い申し上げます。



年頭にあたり

茨城県西部メディカルセンター 病院長 **梶井 英治**



あけましておめでとうございます。旧年中は皆様が大変お世話になり、心から感謝申し上げます。

当院が開院し、1年あまりがあっという間に過ぎました。地域の皆様に信頼され、愛される病院づくりをめざして、全職員が一丸となって取り組んでまいりました。しかし、受診してくださった方々に対するわたしたちの未熟さと至らなから、ご迷惑やご不快な思いをおかけしてしまったことをごさしました。多くの方々から当院の問題点や課題のご指摘、改善に向けたご提案をいただきました。一つひとつのご意見を当院に対する大きなご期待とエールと受け止め、より良き病院づくりをめざして積極的に取り組ませていただきました。まだまだ不十分な点はたくさんございますが、職員や病院に感謝のお言葉、お手紙をいただくことができるようになりました。職員にとりまして、何ものにも代えがたいプレゼントであり、大きなエネルギーとなっています。この場をおかりして御礼申し上げます。

さて、本年は皆様が気がねなく、安心しておかかりいただき、さらにより満足していただくことができる病

院づくりに一層注力したいと思えます。また、健康づくりや病気の予防などの活動も含め、いきいき寺子屋や公開講座などを通して皆様との交流をさらに図ってまいります。皆様からのご希望やご提案をお待ちしています。

本年、当院がかかげる一番の目標は、経営基盤の安定化を図ることです。そのためには断らない二次救急（入院治療が必要な救急患者さんへの救急対応）を推進するとともに、急性期治療や手術を必要とされる患者さんのより円滑かつ迅速な入院診療を行うことができる体制づくりを進めてまいります。効率的な病院運営にも努めます。同時に地域における住民の皆様との連携はもちろんのこと、医師会、医療機関、介護施設、行政の皆様との連携を深めてまいります。医療の質を追求し続ける姿勢も不可欠です。常に改善の意識を持って日々の業務に取り組むとともに、知識や技術の研鑽や医療安全、院内感染への対策を一層推進してまいります。

当院の職員一同、皆様に選ばれる病院づくりに全力を挙げて臨みますので、なにとぞご支援くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

臨床教育センター紹介

茨城県西部地域臨床教育センター講師
茨城県西部メディカルセンター内科医長

寺田 真

筑波大学附属病院・自治医科大学合同茨城県西部地域臨床教育センターは、茨城県西部メディカルセンターの開院と同時に設置された新しい医学教育の場です。臨床教育センターには両大学から教員が派遣され、常勤医として日常診療を行いながら、研究、教育を担当しています。教員の専門領域は救急、内科、外科、整形外科と幅広く、当院で大学病院レベルの診療、教育を提供することを目指し、日々取り組んでいます。

筑西・下妻医療圏は医師が少ない地区ですが、医学生や研修医など医師人生の序盤に、当センターで地域医療の

様々な課題を体験することは、進路選択のうえでも貴重であり、若い医師の確保にも有効と考えています。私も学生時代に県西地域で臨床実習をさせていただき、老年医学に興味をもち、当センターに赴任するきっかけとなりました。

すでに両大学の学生の臨床実習が始まっており、教員の指導のもとに院内で診療に当たらせていただいています。両大学ともに一定の筆記試験や実技試験を合格した学生のみが臨床実習に参加しておりますが、お気づきの点がございましたら、些細なことでも結構ですので是非お声がけください。

来年度からは、初期臨床研修医や専攻医の研修も開始する予定です。両大学の教育の良い点を融合した当センター独自の教育環境をつくり、地域の皆様にご協力をいただきながら、より良い医療人の育成に努めてまいります。

病院活動報告

救急

救急・DMAT

内科部長 兼 救急科 大窪 勝一朗

産科救急コース (JCMELS)、米国心臓病学会認定の一次救命コース (AHA BLS)、日本救急医学会認定の二次救命コース (ICLS) を開催しました。標準化された最新の知識と技術を学ぶことができました。受講生は、当センターのみならず、筑西管内から多数受講して下さいました。筑西管内の、顔の見える、職種を超えた関係・環境作りに役立つものと考えます。また、政府訓練にDMAT隊として参加しました。DMAT各メンバーも政府主催の技能維持訓練に参加しました。災害時にいつでも活動できるよう、知識と技術の維持に努めております。



看護部

第74回国民体育大会 いきいき茨城ゆめ国体2019 筑西市剣道競技 (会場:下館総合体育館) 救護について 9月29日~10月1日

一般外来師長補佐 仁平 洋子

2019年9月29日(日) ~ 10月1日(火) 3日間の1日間、9月30日(月)に看護師派遣要請に基づいた院外勤務として参加しました。

業務は、協和中央病院の整形外科医師と共に救護席に待機して、傷病者への応急処置・医療機関への救急搬送要否判断・記録です。

2コートで試合が行われ、コートの目前で待機したので、「何かあったら適切に対応しなくては」と競技から目を離せませんでした。

上肢骨折疑いの選手に関係連絡先の当院救急外来で診療を受けていただきました。

スポーツイベントの救護は、傷病者発生時の競技停止の判断・医師・市職員との連携が重要だと感じました。

学会報告

「令和元年度 茨城県看護研究学会」 12月21日

5階病棟 中根 愛子

「令和元年度 茨城県看護研究学会」にて演題発表しました。

と き：2019年12月21日 (土)

と ころ：ザ・ヒロサワ・シティ会館 (茨城県立県民文化センター)
学会テーマである「生きるを支える意思決定」は大変重く、答えが簡単に見つからないテーマであります。ひとりの人として、またそれぞれの立場を通して考える機会になりました。

演 題：「輸液管理におけるエラー防止対策への取り組み

— 行動阻害要因の分析と行動変容のための介入—

発表者：中根愛子

共同研究者：堀江香織 海老原ひとみ

口演の発表でした。発表後の質問時間切れの状態、会場からの質問は特になく、同群で発表された「転倒転落予防の取り組み」についての質問が集中していたことから、関心の高さを感じました。





疾病コラム

骨折の治療 ～ ONE TEAM ～

整形外科 医長 和田 大志



はじめに

急速な高齢化がすすむ日本では、骨粗鬆症（こつそしょうしょう）に伴う骨折が増えています。骨折しやすい骨粗鬆症は、歳をとると誰でもなるような単純な「老化現象」ではなく、立派な骨の病気と言えます。骨折はその合併症であり、大腿骨や脊椎の骨折をきっかけに寝たきりになることがあり、その予防、治療が、医療的にも社会全体でも必要です。

骨粗鬆症とは

WHO（世界保健機関）の定義をかみ砕いて申しますと、「骨の量が減ってスカスカになり弱くなって、骨折しやすくなった状態」と言えます。さらにNIH（米国立衛生研究所）では、「骨の強度が低くなって骨折しやすい状態」と定義しています。ではここで言う骨の強さとは何か？というところ、「骨強度＝骨密度＋骨の質」と言われます。

骨密度の検査は、骨の量、つまりカルシウムなどの重さを計っています。骨密度は数値で表すことができ、骨粗鬆症の治療経過の目安として使われています。ところが、骨の質は、しなやかさや硬さを表し、人体内では計測することができません。骨の強度を計るときに“おおよその”目安になるのは骨密度だけなのです。当院ではこの最新の骨密度計測器を備えており、診療に使用しています。

骨折しやすい人は誰か？

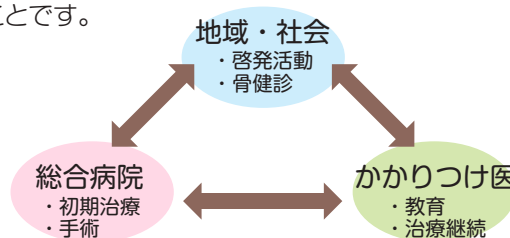
WHOは骨折リスク評価ツールを作成しています。ここでは骨折に影響しやすい要因として、高齢か、女性か、体重、身長（やせ型が骨折しやすい）、両親の大腿骨近位部骨折歴、現在の喫煙、ステロイド薬の使用、関節リウマチ、続発性骨粗鬆症（の原因疾患）の有無、アルコール摂取、大腿骨近位骨密度、の11個が挙げられており、これらに基づいて治療が行われます。喫煙や過度の飲酒は避けた方が良いでしょう。

また、骨折は転倒しやすいことも原因の一つで、ロコモとの関連が強いと考えられます。ロコモとはロコモティブシンドロームの略で、「関節や神経がだめになって動きにくくなり、立ち上がったり歩いたりするのが大変になる状態」のことです。2007年に日本整形外科学会で提唱され、この考え方が社会に普及してきています。ロコモの評価、予防（食事や運動など）について、詳細は日本整形外科学会のウェブページに掲載されておりますので、興味ある方は「ロコモオンライン」で検索してみてください。

骨を強くするには～骨粗鬆症リエゾンサービス～

骨粗鬆症の薬物治療には、内服や注射などいろいろな方法があります。治療効果や副作用も様々なので、主治医とよく相談してください。

骨粗鬆症リエゾンサービスとは、骨粗鬆症の知識を広め、予防、診断、治療を行うために、様々な職種の人達で協力するシステムのことです。リエゾンとは「連絡係」と訳されますが、これは、治療に携わる人達を取り持つ仕事のことです。



このサービスは3つの場面に分けられます。まず地域・社会では骨粗鬆症の社会啓発や骨検診活動があります。そしてかかりつけ医、診療所などで、患者さんへの教育、また骨折しないように再発防止への治療継続を行います。当院を含む総合病院では、骨折の患者さんに薬物治療を開始し、手術やリハビリテーションなどの治療を行います。このネットワークの強化によりスタッフ間、施設間での情報共有が円滑になり、治療効果を上げることができると考えられています。これまでは、骨折の手術後、骨粗鬆症の診断で内服が始まったのに、通院が終わって治療が中断され、再骨折、と言うケースも多くありました。海外では、このサービスにより治療率が向上し、死亡率、再骨折率を低下させ、最終的にトータルの医療費を少なくしたと言われています。当院ではすべての患者さんに“かかりつけ医を持つように”とお勧めしていますが、骨粗鬆症についてもかかりつけ医を持つべきです。まさにワンチームの医療が必要だと痛感します。

当院 整形外科のご紹介

当院の最重要課題である、地域の救急医療を担うべく、筑波大学の協力のもとに2019年10月より常勤医が増員しました。中川副病院長・蒲田医師・照屋医師・私の4人です。ご高齢の方のケガは非常に多く、手術の合間に救急患者さんを診るなど、まだ医師の数は少ない状況であり、軽症や緊急性がない方は、まず、かかりつけ医を受診して頂けるとありがたいと思います。

近年、整形外科領域も専門性が高くなってきています。最先端で高度な治療を当院でも提供できるように、各種専門医が治療に当たっております。私は股関節専門で、以前からナビゲーションを使った人工股関節手術を行っています。当院に赴任後、2種類のナビゲーションを導入し、正確な手術を目指しています。また、手術方法もより低侵襲で筋肉を切らない方法で行い、従来の方法では恐れられていた脱臼などの合併症はありません。股関節外来を月曜午後を開いておりますので、気軽に受診して頂ければと思います。



骨粗しょう症関連コラム

リハビリテーション技術科

転倒予防

最近、転んで骨折し、寝たきりになってしまったという話をよく耳にしませんか？そこで、今回は転倒の原因や対策をご紹介します。

転倒する原因には、床や地面の障害物、段差、部屋の明るさなどの環境要因と、足腰が弱る、視力が悪くなるなどの個人要因があります。

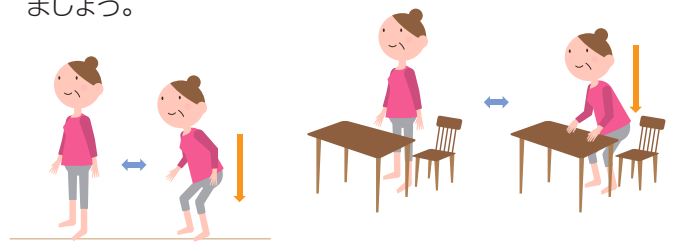
はじめに、環境要因の対策を紹介します。床の座布団やカーペット、電源コード等は、つまずいてバランスを崩す原因となるため、できるだけ床に物を置かない意識を持つことが大切です。寒い季節は、毛足の長いカーペット、コタツやファンヒーターに注意が必要です。また、外出や散歩の際には、草履ではなく踵のある靴を履くこと、不安があれば杖やシルバーカーを使うことも転倒予防に繋がります。

次に、個人要因の対策では、バランスを崩したり、つまずいたときに姿勢を立て直し、一步を踏み出せるから

リハビリテーション技術科 理学療法士 川那子 誠一

だ作りが大切です。運動器具がなくても、踵を上げる背伸び運動や、スクワット、椅子からの立ち上がりなど膝の屈伸運動、片足立ちなどで良いでしょう。最初は椅子や壁などを支えにしながら行いましょう。立位での運動が難しい場合は、椅子に腰掛けて膝の曲げ伸ばしや、つま先の上げ下ろし運動から始めてください。一番大切なことは運動を続けることです。運動が習慣になればラクになり、楽しく行えるようになります。

転ばない環境づくりと運動習慣づくりを心掛けていきましょう。



栄養管理科

ビタミンDで介護予防

ビタミンDには骨や筋肉を丈夫にする働きがあり、骨粗鬆症、生活習慣病、フレイル（虚弱）、転倒の予防効果が注目されています。しかし、多くの日本人が潜在的に不足状態にあり、摂取の改善が望まれる栄養素です。



ビタミンD不足に陥りやすい要因は2つあり、ビタミンDを含む食品が魚類やきのこ類に限られていること、体内でビタミンDを生成するには紫外線を浴びる

栄養管理科 管理栄養士 田口 孝

必要があることが挙げられます。若く健康な人でも、習慣的にこれらの食品を摂取しない場合や、屋内にこもりがちな生活のほか、日焼け止めで紫外線をブロックしてしまうと、容易に不足状態に陥ります。

ビタミンDの充足には、毎日一品は魚を摂取し、顔や手の甲だけでも良いので太陽の光を浴びましょう。サプリメントでの摂取は推奨しません。魚は鮭がオススメです。鮭は皮ごと食べることで、より多くのビタミンDを摂取することができます。妊娠・授乳をしている方も、丈夫な赤ちゃんに育つよう毎日太陽の光を浴び、母子ともにビタミンD不足状態にならないよう心がけてください。食事と太陽の力でいつまでも元気で丈夫な体を保ちましょう。

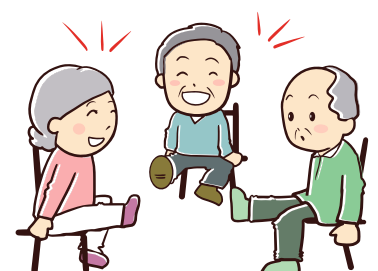
看護部

転倒・転落予防対策

看護部 5階病棟 中根 愛子

看護部では、患者さんの入院時・3日目・1週間目・状態変化時に、「転倒・転落アセスメントスコアシート」を使用して、危険度を判定します。その結果に応じて、具体的に個別性のある看護計画を立案し、転倒・転落予防に関する看護介入を実施しています。

具体的な例として、下肢の筋力が低下している患者さんに対しては、①ベッドから離れる時は必ずナースコールを押していただき、移動を見守る。②ベッドの高さを低くし、ベッドストッパーや柵を確認する。③靴のかかところが折れていないか・ズボンの裾が長く引きずっていない確認する。等の具体的な対策を追加し、看護部全体で転倒・転落予防に努めています。



ドクター紹介

① 専門領域 ② コメント

内科 医員

山口 祐司



- ① 糖尿病・内分泌代謝
- ② 2019年10月に着任した山口祐司と申します。診療科は内科で、特に糖尿病、内分泌疾患（下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患など）、脂質異常症などを中心に診療しております。宜しくお願い致します。

形成外科 医員

山本 寛也



- ① 形成外科
- ② 当院形成外科では、皮膚腫瘍の摘出、外傷や熱傷、褥瘡や難治性潰瘍、巻き爪、眼瞼下垂症、ケロイド・肥厚性瘢痕などの治療に積極的に取り組んでいます。特にケロイドに関しては、日本医科大学と連携し加療をしております。ご相談ください。

整形外科 医員

蒲田 久典



- ① 脊椎・外傷・感染・スポーツ
- ② 筑波大学より10月に赴任しました。座右の銘は「情熱と覚悟」、好きなカレーはトマトチキンカレー、最近乗り鉄の卵の長男に付き合っロマンスクーに乗ってきました。景色が良くて楽しかったです。

整形外科 医員

照屋 翔太郎



- ① 整形一般・肩
- ② 私は沖縄県出身で、野球好きなら誰でも知っているであろう高校で3年間野球をしていました。そこで肩を故障したことをきっかけにスポーツ障害に興味を持ち整形外科医になりました。現在は骨折などの外傷を中心に日々診療に取り組んでいます。地域に貢献できるよう邁進して参りますのでよろしくお願い致します。

新スタッフ紹介

① 氏名 ② 部署・肩書 ③ 一言

① 野宮 梓帆

- ② HCU 看護師
- ③ 7月から就職し、HCUに配属となりました。日々新しい学びを得て、看護師として成長していきたいと思いをします。



① 野口 佳保

- ② 3A病棟 看護師
- ③ 12月から3A病棟に配属となりました。プリセプターさんを初め皆さまから丁寧かつ優しくご指導頂いてます。1日でも早く戦力になれるよう頑張りたいと思いをします。



① 中村 拓民

- ② 3A病棟 看護師
- ③ 整形外科病棟に勤務して2ヶ月が経ちました。変化が多く忙しい日々ですが、とてもやり甲斐のある仕事だと感じています。



① 袴塚 雅史

- ② 3B病棟 看護師
- ③ 10月より3階B病棟に配属となりました。看護師として新人ですが日々勇往邁進し、これからも頑張っていきます。



① 岡山 沙也香

- ② 4A病棟 看護師
- ③ 11月1日付けで看護部に配属になりました。退院支援について学びたいと思いをしています。よろしくお願い致します。



① 齋藤 道代

- ② 5階病棟 看護師
- ③ 持ち前の明るさを武器に微力ですが、地域医療に貢献したいと思いをします。ご指導よろしくお願い致します。



① 福田 晃子

- ② 3A病棟 介護福祉士
- ③ 10月1日から3A病棟に勤務しています福田です。今までの経験を生かしつつ自身のスキルアップを目指します。



① 佐藤 莉沙

- ② リハビリ 作業療法士
- ③ 介護職を経て作業療法士になりました。急性期は初めてで緊張しますが頑張りますのでよろしくお願い致します。



① 渡辺 理佳子

- ② 栄養管理科 栄養士
- ③ 7月から栄養士として勤務しております。病院職員の一員として、日々精進してまいります。ご指導よろしくお願い致します。



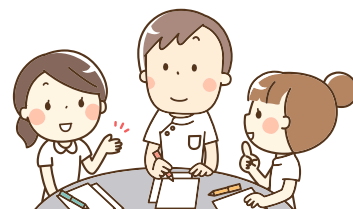
① 菊地 南那

- ② 栄養管理科 栄養士
- ③ 8月より入職しました。栄養士として患者様へ安全なお食事を提供できるように頑張ります。よろしくお願い致します。



① 関口 亜優

- ② 筑西診療所 看護師
- ③ 11月から筑西診療所に配属されました関口です。まだまだ未熟ですが笑顔と温かみを大切に一日一日丁寧に成長していけるよう頑張ります。



地域医療連携室より

当院では、
「茨城県西部地域医療連携懇話会」を
年に2回開催しています。

茨城県西部地域医療連携懇話会は、これまで2018年11月、2019年7月と2回開催しました。

これは、地域の医療機関との連携にとどまらず、介護施設、在宅での介護に関わる介護支援専門員の方々にも参加していただき行っています。

テーマとしては、次のとおり実施しました。2018年11月介護施設での利用者に多く見られる褥瘡のケアを中心に、形成外科と皮膚・排泄ケア認定看護師からの症例提示を行いました。また、7月の2回目は介護施設職員向けに、介護者の腰痛予防として整形外科の疾患の症例とリハビリテーションの実演を行っています。

地域医療連携懇話会は、懇話を中心に実施していますので、二部構成となっており第二部は軽食を摂りながら来場者がコミュニケーションを図る場を設けています。

このように、患者さんが地域で末長く生活できる様各機関との連携を図る目的で、今後も年に2回開催します。



筑西診療所より

『たまど』通信第2号 ~2020年の初夢

チーム『たまど』は、オープンから6ヶ月間の助走期間を経て、2019年4月より2年度目に入りました。今年12月1日付けで、大変喜ばしい出来事が二つありました。

第一は、連携による強化型の在宅療養支援診療所グループが誕生したことです。筑西医療圏において、宮田医院と連携強化型の縁組みをさせていただくことは、診療所オープン以来の私の念願でした。第二は、待望の2人目の常勤医をお迎えできたことです。それによって、訪問診療や外来診療のニーズに幅広く対応することができるようになりました。

医療圏内の訪問診療の受け皿を拡大するためには、連携強化型の在宅療養支援診療所は不可欠の仕組みです。連携の輪は、最大9医療機関まで広げることができるので、おひとりでも頑張っていっしょに在宅療養支援診療所の負担を軽減できます。さらに、新たに訪問診療に取り組みたいと考えていらっしゃる先生のお役にも立てるでしょう。

地域包括ケアシステムの大きな目標の一つは、最期まで住み慣れた自宅や希望する施設で自分らしく過ごせる『地域づくり』です。日本全国で、「かかりつけ医」が「かかりつけ患者」を、最期まで看取る取り組みがなされています。

チーム『たまど』の今年のスローガンは、ワン・ストップ! (同じ屋根の下で)、ワン・ビジョン! (『自分らしく』を支

えるという、思いを一つにして)、ワン・チーム! (多職種が一つのチームとして) です。特に、重視していることは、多職種がお互いをリスペクトし合いながら、チームを形成することです。これまで、訪問看護師やリハスタッフの気付き、ケアマネージャーからの提案、MSW独自の視点から得られた情報、さらには事務スタッフが気付いた外来患者様の情報にどれだけ助けられたことでしょうか。

今後共、チーム『たまど』に対する、ご指導とご支援をお願い申し上げます。



救急外来・夜間受付・面会時間

救急外来・夜間受付

ご来院の前に以下をお電話でご連絡下さい。

- 患者さんの氏名・生年月日・住所
(当院の診察券をお持ちの方は診察券記載の番号をご連絡下さい)
- 患者さんの様子
ケガの方は
 - いつどのようにしてケガをしたのか
 - ケガの場所
 - ケガの程度
(キズの大きさ、深さ、痛みの程度、出血の有無)
 病気の方は
 - 現在の症状
(体温、苦痛の程度や場所、下痢やおう吐の有無など)
 - かかりつけ医の有無
 - 既往歴
(慢性的な持病や過去に罹った大病、入院歴、手術歴など)

連絡先

茨城県西部メディカルセンター 0296-24-9111 (代表)

お持ちいただくもの

- 診察券 (お持ちの方)
- 医療受給証 (お持ちの方)
- 健康保険証
- お薬手帳
- 紹介状 (お持ちの方)

救急外来の場所

時間外入口を
入って右側の
夜間休日受付で
受付をして下さい。



※時間外入口は、
病院北側にあります。

つくば街道方面

面会時間

平日・休日とも 14:00 ~ 20:00 までです。

- HCU 病棟は重症患者を診療している為、面会に制限があります。尚、詳細については病棟看護師にお尋ねください。
- 小児科病棟での面会をご両親・祖父母のみでお願いします。
- お子さま連れでの面会は感染予防の為、ご遠慮ください。
- 電話でのお問い合わせについては個人情報保護のため、お伝えすることが出来ませんので、ご了承ください。



地方独立行政法人 茨城県西部医療機構

茨城県西部メディカルセンター

Ibaraki Western Medical Center

〒308-0813 茨城県筑西市大塚 555 番地
TEL : 0296-24-9111 (代表)
FAX : 0296-24-9171
予約センター : 0296-24-9172 (月曜~金曜 9:00~16:00)
H P : <http://www.iwmo.or.jp/>



■診療科 内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、皮膚科、泌尿器科、婦人科、救急科、麻酔科 (水谷太郎)

■受付時間 初診 月曜~金曜 8:30~11:00
再診 月曜~金曜 8:00~16:30

■診療時間 9:00~17:00

■休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始

■交通案内

・電車をご利用の場合
JR宇都宮線小山駅乗り換え、
JR水戸線下館駅下車
下館駅北口より広域連携バス・
地域内運行バスにて10分
(電車所要時間、小山駅から6駅25分)

JR常磐線友部駅乗り換え、
JR水戸線新治駅より車で9分
(電車所要時間、友部駅から8駅33分)

・車をご利用の場合

北関東自動車道
桜川筑西ICより17分、真岡ICより33分



地方独立行政法人 茨城県西部医療機構

筑西診療所

Chikusei Clinic

〒308-0847 茨城県筑西市玉戸 1658 番地
TEL : 0296-28-2261 (代表)
FAX : 0296-28-4471
H P : <http://www.iwmo.or.jp/page/dir000008.html>

- 診療科 内科
- 外来診療日 月曜日~金曜日 9:00~12:00
(受付は8:30~11:00)
- 訪問診療日 月曜日~金曜日 8:30~17:15
- 休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始

■交通案内

・電車をご利用の場合
JR宇都宮線小山駅乗り換え、
JR水戸線玉戸駅下車
徒歩3分
(電車所要時間、
小山駅から5駅18分)

・車をご利用の場合
国道50号線
「玉戸駅入口」信号から
北へ約100m



茨城県西部医療機構の職員(正規・非正規職員)募集中

病院ホームページをご覧ください。お電話にてお問い合わせください。

■問い合わせ 事務部人事課 TEL : 0296-24-9111 HP : <http://www.iwmo.or.jp/>

